

ニーズレター

(2011年 夏号)

グループホームネット 香川



もくじ

- 理事長巻頭 (2)
- スタッフの紹介 (3)
- 事務局便り (4)

▼△▼△ 理事長巻頭言 ▼△▼△

GHNKの今後

うちだはかる

昨年度の事業の振り返りと今年度の事業計画などの検討と確認をする今年度の総会を終えました。

ここで、あらためてグループホームネット香川(以下、GHNK)のミッションを確認したいと思います。

「住」の確保としてのグループホーム

入居者の一人ひとりが安心して暮らしていくための住居の確保と、生活の中から起こってくる生きづらさを、ホームワーカーと相談しながら、その人の目指す社会生活を保障することが、GHNKの理念(ミッション)です。

入居者の多くの人たちが、精神病院での入院生活の経験を有しています。

指摘される事ですが、病棟の日常は、病院文化の中、多くがパターンリズムに縛られています。すなわち「あなたのためだから」というオブラートに包まれた言葉で、「薬を飲みなさい」と。

その結果、退院し、しばらくすると服薬をしなくなる事が多くあります。入院中に服薬の必要性を何度も伝えることなく、ナースステーションの前に入院患者はならばされ、ツバメのヒナのように口をあける状態が、日常の風景となっている病院もあると聞いています。

病棟には起床時間があり、消灯時間があり、作業があり、レクリエーションがあります。「生活指導」という管理につつまれています。長年その環境に置かれると、時間を自己管理することすら考えられなくなり、結果、依存した生活が日常となっていきます。そして人は、管理される中で依存性を高めていくのです。

一方、社会の中では駄目だとわかっていること、例えば経済的に苦しくても、わずかのお金を握り締めて好きなギャンブルに行ったり、糖尿病で甘いものが駄目だとわかっているにも、一口甘いもの食べたりなど、わたしたちの暮らしは、成功する事よりも挫折や失敗をすることの方が多きものです。

これら「失敗」・「挫折」を繰り返すのが、地域で生活するということでもあるようです。生きることは、思う通りに行かないものです。

でも、自分の失敗や挫折が否定されるのではなく、肯定的な思いを持って、受け止められる経験を重ねることが、自己評価の高まりにつながるということは、子どもが成長する過程でよくわかることです。自分で何かができるようになるためには、多くの失敗という経験があって初めてできるようになるということです。失敗する経験を奪わないことです。

GHNK で多くの方が日々を過ごしています。仲たがいや思い違いでトラブルになることは日常よくあることです。トラブルのあとをどう仕舞いするかが大切なのでしょう。今日の経験が明日へつながっていると考えると、一つひとつの経験を重ねていくという地道な毎日こそが、成功の近道になるのでしょうか。

そう考えながらホームワーカーは、入居者の人たちに寄り添っているのです。

▼△▼△ スタッフの紹介 ▼△▼△

梅雨の晴間

山内 仁史

今年の梅雨は雨が何日も続く、うっとうしい雨の多い年である。

この日は一瞬晴間がのぞいたそのとき「彼」は旅立たれた。初めての対面が御棺の中からである。ホームワーカーとして初めての仕事でもある。身内とグループホームの方だけの何も無い美しい最後である。

年老いた母の清々しい表情が印象的である。彼は国立大学に行き、将来を嘱望されていたに違いない。しかし、この後38年間精神病院で過ごし60歳で私たちのグループホームに来てすぐにガンの余命宣告をされて、ようやく生きる事になる。享年64歳「彼」の人生は何だったのだろうか？

数日後、彼の部屋を片づけで入ると、岩波文庫の政治、哲学の本が数百冊にダンディなスーツが何着も狭い部屋に埋もれてあった。同じメンバーさんにどんな方だと聞けば物静かで仙人のような方だという。最後は精神病院で迎えたくないと言っていたそうです。

部屋の片隅に料理本と弁当箱があった。誰に食べさせたかったのだろうか？ホームワーカーの仕事とは「人の絆」だよと教えてくれていたのだろうか？グループホームでの生活が、一瞬の晴間だったかもしれないが、彼は喜んでいて信じたい。今後ともよろしくお願いします。

▼△▼△事務局便り▼△▼△

増田 周作

今回は、新しくスタッフとして働いてもらうことになった山内さんに自己紹介がてら記事を書いてもらいました。

今後も、よろしくお願い申し上げます。

皆さんも十分ご存知のこととは思いますが、去る3月11日に、東日本大震災が発生し、多くの方が亡くなり、傷つきました。

4カ月経つ今でも、なかなか復興への道筋は見えてこない中で、大変な思いをしていることと思います。

テレビのニュースなどでは、障害者のことなどほとんど報道されず、インターネットなどで、やっと知ることができるという感じです。

生活の中では、このような震災も含めて様々なことが起こりえます、グループホームでも同じです。

昨年何人か、入居者の方が亡くなりました。

大切な友人が亡くなることは、入居者にとってもスタッフにとっても様々な思いをめぐらせます。

そして、その経験や出来事からたくさんの方のことを学ばせてもらいました。

まだまだ、現場のスタッフとしては問題や課題は多いですが、入居者とともに学ばせていただきたいと思っています。

追記

6月4日に今年も総会が無事に終了いたしました。

支援して下さっている会員皆様のおかげによるところであります。

ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

グループホームネット 香川

(発行) 特別非営利活動法人 グループホームネット香川

連絡先: 香川県高松市円座町1124番地6 入屋工務店2階

TEL: 087-885-5270

Fax: 087-887-5955

